

佐世保玉屋の歴史

創業は文化8年 1806年(文化3)



玉屋の前身 田中丸商店は今から219年前の文化3年(1806)九州屈指の商港として栄えた肥前国(佐賀県)牛津町で、田中丸善吉によって興されました。11代将軍徳川家斉(14才)38才のころヨーロッパではナポレオンの時代でした。

田中丸呉服店完成 1920年(大正9)



起工より238日をかけて大正9年10月20日に完成いたしました。西海の各所となり4階からの景望を楽しむため多くの方がご来店されました。

大正時代のチラシ 1920年代(大正末)



中元売り出しのため、岐阜提灯やご贈答品、商品券などの紹介が見られます。屋上では水部や園芸部の紹介も目を見まします。

西日本初のエレベーター完成 1931年(昭和6)



増築に合わせて、エレベーターが1～5Fに完成しました。写真右端は初めてのエレベーターガールです。

4・5・6階売場増設工事 1934年(昭和9)



増築を機会に屋上玉屋看板に電飾がほどこされました。

本通側のウインドウディスプレイ 1934年(昭和9)



「毎朝先着百名様にヤマサ醤油瓶詰進呈」と書かれています。

人気を集めた春の裳美会 1934年(昭和9)



裳美会(しょうびかい)はイベントの名称です。このころはまだ呉服への関心が高く多くの支持をあつめました。

女子の洋装制服制定 1935年(昭和10)



初めて登場した洋装制服は話題をよび、若い男性に「お嫁にするならデパート・ガール」と人気となりました。

正面玄関に飾られた「艦隊歓迎」 1936年(昭和11)



世の中は軍色が強くなってきました。



女子も木剣 1939年(昭和14)

このころから大和なでしこの女子従業員は、針を木剣にかえて武道の稽古に励みました。男子従業員は剣道や柔道に励みました。



軍用機を献納 1939年(昭和14)

佐世保進出以来 海軍と密接な関係を保ってきた玉屋は、海軍省へ九六式艦上爆撃機報国第341号(第1玉屋号)九五式水上偵察機報国343号(第2玉屋号)を献納しました。写真は設計図をもとに制作された献納軍用機の模型



軍用機と搭乗員たち 1939年(昭和14)

福岡市箱崎浜で盛大な命名式が行われ、従業員はじめ、一般市民も参列して話題となりました。



傷病兵慰問 1940年(昭和15)

佐世保玉屋は紀元2600年記念行事として、矢岳練兵場(現九文高)に「東京セネターズ」と「名古屋」を招き、また翌1941年にも「東京ツバサ」と「名古屋」の一戦を開催し、海軍病院の傷病兵を慰問しました



女子制服様変わり 1942年(昭和17)

防空訓練が強化され、防空ずきん、もんぺ、ゲートルなど非常時服装が強化されました。女子従業員のご自慢の洋装制服も様変わりました。



武運長久の寄せ書き 1943年(昭和18)

従業員の出兵で男子従業員が相次いで消えていきました。これは田中丸善一郎(元会長)海軍第14期飛行予備学生の出兵に祭して寄せ書きされた日の丸です。



全館被爆・終戦 1945年(昭和20)

6月29日佐世保は上空襲を受け、玉屋は本館及び付属の建物一切を全焼、廃墟と化しました。8月15日終戦を迎えました。



復興売り出しチラシ 1948年(昭和23)

戦後3年目に行われた、復興記念一割引払い戻し大売出しのポスターです。



エキスポート・バザー開設 1950年(昭和25)

米軍駐留の必要性から3階に米軍関係、在留外人専用のエキスポート・バザーを開設して、ドル販売を開始しました。



このころの玉屋外観 1950年(昭和25)

玉屋もようやく戦災から復旧してきたころの状況です。島瀬公園周辺には輪タクが並んでいます。



米兵が目立つ通り 1950年(昭和25)

現アーケード通りの玉屋前を歩く米兵たち。



ちんどん屋が登場した 1953年(昭和28)

このころから佐世保にもちんどん屋が登場した。玉屋の宣伝に一役買いました。このままの扮装で全国宣伝コンクールに出場し、みごと全国一の栄冠を獲得しました。



初のエスカレータ運転開始 1955年(昭和30)

1階から2階間にエスカレーターが完成しました。開通式には長寿老夫妻を招いて盛大に完成を祝いました。



縁起福袋発売はじまる 1955年(昭和30)

戦前から名物化していた正月の縁起福袋売り出しが1955年1月2日から復活、午前3時から玄閣で発売されました。



第3期増築工事完成 1956年(昭和31)

南側新館鉄筋4階建てが完成しました。



電光ニュース設置 1956年(昭和31)

当時珍しかった電光掲示板設置を喜び従業員とお客様たちです。



セルフサービス売場開設 1962年(昭和37)

全国に先がけて食料品売場がセルフ化されました。この成功は各地のデパートから多くの見学者を招き話題となりました。



S・S・C開設 1963年(昭和38)

食料品売場のセルフ化成功に次いで生活用品全般を扱うS・S・C(セルフサービスセンター)を開設、積極的な先制商法がまた業界の話題となりました。



歳末で賑わう店内 1963年(昭和38)

大増改築 着工前年の歳末商戦で賑わう旧館の店内です。



撤去された時計塔 1964年(昭和39)

屋上の時計塔が撤去された跡。

私共は、明治27年に佐世保市に出店させて頂き様々な時代の変容のなかで131年間という永きに亘り地域の皆様方に大変お世話になってまいりました。百貨店は変化対応業と教えられてきておりますが、時代背景に合わせて様々に変化を行い、お客様にお役立ちできる形へと作り変えていくことが使命だと思っております。今後もそうした方向をしっかりと見定めながら真心を込めて、地域の皆さまに喜んで頂ける取り組みを行い、お客様がバラの包みを開かれる時の幸せの為にこれからもお役にたつて参ります。131年間たゆまずご愛顧いただきましたことに心から感謝を申し上げます。

株式会社佐世保玉屋
代表取締役社長 田中丸弘子



駐車場の拡大 1964年(昭和39)

駐車場問題がクローズアップされていた際、佐世保市では玉屋横の川を暗きょにして駐車場を拡大することになりました。



若い玉屋新しい玉屋 1965年(昭和40)

1965年4月16日新装開店しました。早朝からお客様が詰めかけ一日の入場客数が7万人という佐世保経済史上異例の人手となりました。



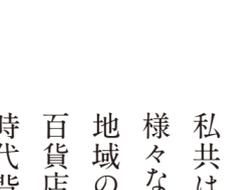
佐世保玉屋浸水 1967年(昭和42)

7月の集中豪雨により、佐世保川が氾濫し、中心市街地や国道は広い範囲にわたって浸水し車両も浮かぶ甚大な被害を受けました。



ハワイからフラダンスチーム 1967年(昭和42)

玉屋夏の祭典、ハワイアンパレードにともない、ハワイから高校生のフラダンスチームが来店し、イベントを大いに盛り上げました。



131年分の感謝を込めて

私共は、明治27年に佐世保市に出店させて頂き様々な時代の変容のなかで131年間という永きに亘り地域の皆様方に大変お世話になってまいりました。百貨店は変化対応業と教えられてきておりますが、時代背景に合わせて様々に変化を行い、お客様にお役立ちできる形へと作り変えていくことが使命だと思っております。今後もそうした方向をしっかりと見定めながら真心を込めて、地域の皆さまに喜んで頂ける取り組みを行い、お客様がバラの包みを開かれる時の幸せの為にこれからもお役にたつて参ります。131年間たゆまずご愛顧いただきましたことに心から感謝を申し上げます。

大増改築後の新しい売場 1967年(昭和42)

広々とした美しい一階正面の売場



吹き抜けから見下ろす 1967年(昭和42)

西日本随一の規模を誇る明るく広々とした5階の「吹き抜け」下はおもちゃ売り場。



▼
裏へ続く